

歴史II

環大西洋の歴史12

12月20日：環大西洋革命へ

復習:英領アメリカの成長

植民地のふたつの形

- 北部：移民自営農による経営
→食糧生産が中心
- 南部：プランテーション
→イギリス人経営者＋奴隷労働力
 - タバコ、サトウキビ、ラム酒
- ＋中間地域(ニューヨークなど)→共存型社会

先住民の排除

18世紀に急速に成長

大西洋ネットワークの変容

- 以前：スペイン・ポルトガルの独占
 - 他国の排除
 - 漏斗型ネットワーク
- 以後：イギリス、フランス、オランダの参入
 - ネットワークの多重化
 - 新たな植民地の勃興
 - 北米
 - アルゼンチン、ベネズエラ

アルゼンチン、ベネズエラ

- 両地域ともスペイン・ネットワークの周縁
- アルゼンチン（ラプラタ副王領）
 - ポルトガル、オランダ、イギリスの密輸船が来航
 - ポトシの銀が目標
 - →首都ブエノスアイレスが急成長
 - 小麦、牛肉、牛革
- ベネズエラ
 - 高品質カカオの生産地
 - 貿易の拡大→奴隷プランテーションの拡大
 - 首都カラカスに富裕層が出現

重商主義の時代

ふたつの段階

- ① 17世紀半ばまで：重金主義(bullionism)
スペインの貴金属独占への挑戦
- ② 17世紀以降：貿易差額主義(mercantilism)
貿易収支の黒字拡大：輸出増加・輸入抑制
輸出先として植民地が必要に
 - a.他国を排除：武力闘争
 - b.植民地に本国との貿易を強制
 - c.原料と加工の分離

植民地争奪戦

大西洋が英／仏／蘭の抗争の場に

- 軍事費の増大
- 財政収入の拡大が必要に
- 植民地の統制強化

現実：ネットワークの複雑化

- 貿易統制は困難
- 植民地側の反発

植民地側からの大西洋ネットワーク変更